

障害者就業・生活支援センター 2号適用者に最良、最高の社会資源



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット
「デイサービスけやき通り」代表取締役

前号でも触れた「障害者就業・生活支援センター」とは、客観的に見るとどんな機関なのでしょう。私たち40代、50代の中途障害者にとってはとてもありがたく、重要な社会資源ですが、実は、病院勤務のセラピスト（主に障害者を相手にしている専門職）に聞いてもあまり知らない、という悲しい事実があります。

厚生労働省のHPには、このセンターは「障害者の身近な地域において、就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う」と書いています。2002年には全国に21センターであったのが、2015年には、全国に327センターと約15倍に増加しています。



身体障害は5分の1

そもそも障害者就業・生活支援センターは、障害者雇用促進法に基づいて設置されている機関です。

雇用促進法というのは、企業側に障害者雇用を促すほか、障害者が働くことを支援する施策があり、その一つとしてこのセンターが位置付けられています。運営は、公益法人（社団または財団）や社会福祉法人、特定非営利活動法人（NPO）などです。

私を支援してくださったソーシャルワーカー（以下、SW）さんに、そのセン

ターがどのくらい利用されているかを尋ねてみました。

「2015年3月末の数ですが、資料を見てみると、登録者数は、身体障害者が約80名、知的障害者が約210名、精神障害者が約120名、その他障害者が約10名ですね」

合計420名、私のような身体障害者は約5分の1で、全体からみるとそれほど多くありません。ただ、その半分が1～2級の重度の障害者だそうです。

年齢的には？

「一番多いのは、30代、40代ですね。60代の方もいます」

その40代の方が介護保険適用になると2号適用であり、私のようなケースなのですね。

そして、ケアマネさんや介護保険関係の方とのつながりは、あるのですか？との問いに、「ん～、介護保険（関係）とは少ないですね。やはり、働けるような状態になっている方って、おのずと介護保険のサービスから離れていく方が多いので」

前号にも書いたように、私はたまたま街中でこのセンターを見つけ、自ら扉をたたき、利用することになりました。私のようなケースは、レアなケースなのかもしれません…。

病院のセラピストさんや介護保険のケアマネさんに知っていただければ、もっとたくさんの人が利用できるようになるのではないのでしょうか。

葉山 靖明 はやま やすあき

1965年福岡県生まれの51歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士



若いカタマヒの人

介護保険被保険者の中で、数は多くはないが、必ず出てくる“2号問題”。

「介護」という視点で考えると、ケアマネさんも、どう支援したらいいか?と行き詰まってしまうようです。私より読者のケアマネさんの方が、十二分にご存じと思います。

今まで①「健康な体」で、②「仕事により収入を得て」、③「家族を支える生活」だったのが、突如、①「障害者」になり、②「仕事を辞め、収入がなくなったり」、③「家族を支えるどころか、家族に支えられて歩き」という状態に、言わば真逆の状態になる2号適用者。あまりにも大きな変化に対応する“介護計画”は、本人にもケアマネさんにとっても、決まった道などなく、道なき道に新たな道を創っていかねばならないのです。

リハビリテーションは、悲しいかな病院内のみ、訪問リハビリではROM(関



センター内の相談室

節可動域訓練) しかない… といっ

ては言い過ぎでしょうか? そういった状況の下、①の障害についてプロ、②就業についてもプロ、そして③生活の面までプロという、この障害者就業・生活支援センターの中のSWさん。

私は、2号適用に悩む、ケアマネさんと本人にとっての最大、最良、最高の社会資源だと思います。

ただ、一点の不安は、私が出会ったSWさんのような、明瞭な頭脳と、澄んだ優しさと、深い度量あるSWさんが全国にどれくらいいるかは、私には分かりませんが……。



当事者会の支援も

このセンターのHPには、施設紹介として優しい書体でこう掲載されています。「働きたい、働いている職場で困っている、健康面や金銭面などで日常生活で困っていることなどの相談にのり、必要に応じてお手伝いします。また、就職者を対象とした余暇活動や調理会、当事者会、就労支援担当者を対象とした就労支援スキルアップセミナー等を実施しています。6名のスタッフでこの地域をはじめ、その近隣地域からの相談にも応じ『働きたい』思いを実現できるよう、スタッフ一団力を合わせてポジティブ思考で取り組んでいます」

「当事者会の実施」という言葉が入っていることにご注目ください。次回は、私や仲間が、その「当事者会の実施」によって、社会に挑んでいる姿を書きます。乞うご期待!!

今月の私

札幌のOT学会で研究発表

9月9日から札幌市で行われた第50回日本作業療法学会に参加してきました。

私は発症後、病院で、料理という作業療法でよみがえった経験があります。以来、作業療法士さんのお付き合いが深く、学会に参加するまでになりました。

今回は初めて研究発表しました。発表は、他の職種でもエントリーすることが出来ます。もちろん、査読という関門をくぐらなければなりません。演題は「実践型旅行研修の分析報告」。私たち障がい当事者が主体となつて、リハ職に当事者の生活行為を学んでいただくという一泊旅行の研修について口述発表しました(写真)。スライドを使って7分なので、とても緊張しました。

私のような当事者がこの学会で発表すること
は、ほぼ初めてらしいです
(^^)/ (>.<)



著者、葉山さんと会おう! 詳しくは10p.参照